

第 92 回目の GIS News! です

やわらかな陽射しが日一日と暖かさを加え、ようやく春めいてまいりました。庄内では梅が咲き始め見頃となっています。

さて、今回はGIS導入時の注意点について考えてみます。

「GIS導入（電子化）の落とし穴」

電子データによる成果納品がすすむなか、データ管理にGISを利用しようと検討している部署もあると思います。その際、導入後の継続的な運用についても十分考慮されていますでしょうか？

1. GIS導入が周知していますか。

システムがあるということが知れ渡っていないと利用されることはありません。バカバカしいようですが、案外見落とされがちなことです。

2. GISを利用できる人間に限られていないでしょうか。

「操作がめんどろ」「担当の〇〇さんが使い方を覚えてればいい」といような状態になっていませんか。

3. GISシステムの引き継ぎが問題なく行われていますか。

人事異動などで利用する人が替わる時、システムに関する引き継ぎがきちんと行われていますか。

例えば、紙の資料に置き換えて考えて下さい。作成した資料があることが知られず、閲覧、利用できる人間に限られ、管理者の引き継ぎが十分になされていない。電子化したといっても資料としての運用は今までの紙の資料と変わらないものではありません。誰でも簡単に利用できることが大切です。1～3のような状態では、電子化の利便性が半減してしまいます。

「誰でも使用出来る環境整備」

1. 導入したGISの認識を深める。

電子データを実際の業務などで利用し、多くの人たちの目に触れるだけでも効果があります。

2. 利用したいときに利用できる環境を用意する。

電子データがCDなどに保存されて終わっていたり、担当者が専属で使用するコンピューターに保存されているのでは、利用したい人が即座に利用できません。GIS用のコンピューターを用意することが大切です。

せっかく導入するGISシステムなのですから、継続的な運用についても検討してみたいかがでしょうか。

次回の GIS News!

今回は、2005年5月9日発行予定です。よろしくお付き合いください！

Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 佐藤秀紀 発行日：2005年4月4日

